

空を飛ぶ



飛行機から見たアブ・シンベル神殿。アスワン・ハイ・ダム建設で水没の危機にあったが、細分され、元の場所から60m持ち上げられて再生した。

空を飛ぶといっても夢の中で飛ぶ話です。

初めて空を飛ぶ夢を見たのがいつだったのか定かでないけれど、飛び上がった時のことはいまでも鮮明に覚えています。三段跳びの、ホップ・ステップ・ジャンプの最後のジャンプで、上半身を折り曲げ両足を精一杯伸ばして着地しようとしたところ、伸ばした両足がいつまでも地面に届かずぐんぐん先に行くので、おお、これはと、それが初めて飛んだ時の飛び方でした。

とても快適だった。こんな素敵なことがあるのかと夢からさめて感激したものです。このような夢を全く見ない人もいるようです。飛ぶどころかせいぜい階段から落ちるくらいなのと言われると、かわいそうと思わずにはいられません。

空を飛ぶ高さには大きく三つほどあり、一つは地面すれすれ、二番目は電線を越え家の屋根を越え地上数十メートルほどの高さ、もう一つはそれこそ空の上高く飛行機と競うくらいの高さまで行く飛び方。たいてい低空飛行から始まるようです。

恐ろしいことに、飛んでいて途中から失速して墜落することもあると、現在の雑学事典であるインターネットには書いてありました。そんなことなら飛ぶ夢など見ない

方がよほどいいのと思います。夢はなかなか自分の意志で見たい夢を見ることは難しく、その結果あえなく墜落することになる、なんともお気の毒と言うしかありません。

一度飛ぶコツを覚えると飛び上がるのは簡単です。軽く助走して地面を蹴る、そして両手を広げ両腕で大気を漕ぐようにすればどんどん高度が増えていきます。加速も出来るし上昇下降も自由に出来るようになる。

空を飛ぶ夢はとても快適でそのときの開放感は何とも喻えようがないのですが、不思議なのは、実際は経験したことのない上空からの鳥瞰図的視界を得ることが出来ることです。屋根は真上から見えるし、川は蛇行して流れているし、田は四角の升目を作っている、それらがそのままに見えるのです。これは自分一人のことでなさそうで、インターネットの書き込みを見ると、同じように上から鳥の目で眺めていると、いろんな人が書いています。

もう一つ不思議なのは、現実の世界では高所恐怖症なのに（映画で、追われた犯人が高層ビルの窓にぶら下がって下を見る、絶体絶命の場面では、もうそれだけで下半

身が寒く落ち着かなくなる) 夢で空を飛んでいるときは全くそれが無いということ
す。

空を飛ぶのがあまり快適なので、私の友人が起きている時、つまり覚醒している時
に空を飛びたいと思い、腕が軽くなります、肩から力が抜けてきました、全身が浮く
ようです、と暗示をかけて、飛んだと同じ気持ちになる訓練を結構かさねたそうですが、
当然のことにもうまくいかなかった。

起きている時に寝ている時と同じことを望んでも出来ないようになってい
る。してはいけないことなのでしょう。

それにしても、空を飛ぶ夢は若い時に見る夢のようでこのところさっぱり見ていま
せん。

(二〇〇七年一月一七日)